十三沢右俣

L氏

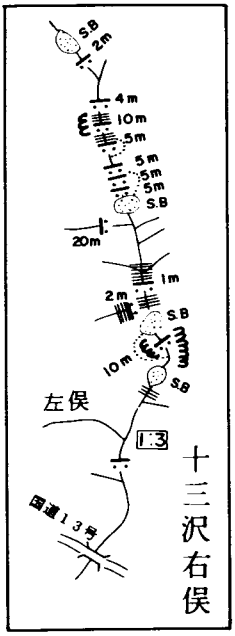
一九八三年五月二二日

十三沢右俣の下降は、事前に山菜とりの人達から得ていた情報と異なって、滝の連続するなかなかきつい下りであった。

葡萄沢山を一三時に出発。一〇分程で沢に降り立つ。ワラジを履き直して沢を下り始めたとたん、四㍍の滝が出てきて、これは右岸をクライミングダウン。そしてすぐに一〇㍍滝。これはとても降りられない。ザイルを取り出して、立木を支点に左岸を懸垂下降する。右岸には、ビニール袋いっぱいたちまち採れそうなほど、ゼンマイが群生しているのだが、こちらには懸垂の支点がほどよい位置に求められないと有っては、指をくわえて見逃すほかはない。そのはらいせというわけでもないが、ザイルにぶら下がったままで、ウドを集めながら下った。

このあとも五㍍クラスの滝が連続する。いずれもクライミングダウンするにはちょっときびしい滝ばかりである。ただ幸いなことに、ホールドとなる木の枝があったり、沢からほとんど離れずに捲くことができたりする。また、所々にスノーブリッジが残っていて、その下をくぐりぬけたりもする。

一五時三〇分、沢がカーブした所にある一〇㍍滝の右岸を巻いて下ると、あとは平凡となった。一五時五五分、下降を終え、一三号国道にあがる。

（記・　）

[タイム]　葡萄沢山・下降開始（一二：五〇）→下降終了（一五：四〇）